

# 大阪府におけるエイズ発生動向

平成28年（2016年）1月1日～12月31日

大阪府健康医療部保健医療室

# 目 次

## 平成28年（2016年）のエイズ発生動向

1	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2	総括	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
表 1	2016年に報告されたHIV感染者及びAIDS患者の内訳と前年の比較		P 3
表 2	2016年末現在のHIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別 累積報告件数	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
表 3	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6
表 4	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、感染経路別年次推移	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 7
表 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別年次推移	・・・・・・・・	P 8
表 6	HIV感染者及びAIDS患者の性、年齢階級別年次推移	・・・・・・・・	P 9
表 7	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染場所別年次推移	・・・・・・・・	P 11
表 8	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数	・・・・・・・・	P 12
図 1-1	2016年に報告されたHIV感染者の感染場所と前年の比較	・・・・・・・・	P 3
図 1-2	2016年に報告されたAIDS患者の感染場所と前年の比較	・・・・・・・・	P 3
図 2-1	2016年に報告されたHIV感染者の性と前年の比較	・・・・・・・・	P 4
図 2-2	2016年に報告されたAIDS患者の性と前年の比較	・・・・・・・・	P 4
図 3-1	2016年に報告されたHIV感染者の感染経路と前年の比較	・・・・・・・・	P 4
図 3-2	2016年に報告されたAIDS患者の感染経路と前年の比較	・・・・・・・・	P 4
図 4-1	2016年末現在のHIV感染者の国籍、性、感染経路別累積報告数	・・・・・・・・	P 5
図 4-2	2016年末現在のAIDS患者の国籍、性、感染経路別累積報告数	・・・・・・・・	P 5
図 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移	・・・・・・・・	P 6
図 6-1	HIV感染者の感染経路別年次推移	・・・・・・・・	P 6
図 6-2	AIDS患者の感染経路別年次推移	・・・・・・・・	P 6
図 7-1	2016年に報告されたHIV感染者（男性）の年齢階級別割合	・・・・・・・・	P 10
図 7-2	2016年に報告されたHIV感染者（女性）の年齢階級別割合	・・・・・・・・	P 10
図 7-3	2016年に報告されたAIDS患者（男性）の年齢階級別割合	・・・・・・・・	P 10
図 7-4	2016年に報告されたAIDS患者（女性）の年齢階級別割合	・・・・・・・・	P 10
図 8	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数	・・・・・・・・	P 12

## 平成28年（2016年）のエイズ発生動向

### 1 概要

#### (1) 発生の主な内訳（表1・表2）

- 2016年に大阪府域において報告のあったHIV感染者（以下「HIV」と省略）は140件で、前年に比べて28件の減少。AIDS患者（以下「AIDS」と省略）は48件で、前年に比べて5件の減少。
- HIV・AIDS報告数に占めるAIDS報告数の割合は、25.5%と前年の24.0%に比べ増加している。
- 累計では、HIVが2,433件、AIDSが790件、計3,223件となった。

#### (2) 感染経路（表1）

- HIV 140件の感染経路を見ると、異性間性的接触が22件（15.7%）、同性間性的接触が101件（72.1%）、静注薬物使用が0件（0.0%）、母子感染が0件（0.0%）、その他が0件（0.0%）、不明が17件（12.1%）で、全体の約9割を性的接触による感染〔123件（87.9%）〕が占めている。前年割合と比べると同性間性的接触（73.8%→72.1%）、異性間性的接触（17.9%→15.7%）がそれぞれ減少、不明（8.3%→12.1%）が増加し、静注薬物使用（0.0%→0.0%）、母子感染（0.0%→0.0%）の報告はなかった。
- AIDS 48件の感染経路を見ると、異性間性的接触が17件（35.4%）、同性間性的接触が23件（47.9%）、その他が1件（2.1%）、不明が7件（14.6%）となっており、前年割合と比べると同性間性的接触（60.4%→47.9%）が減少し、異性間性的接触（15.1%→35.4%）は増加した。

#### (3) 国籍、性（表3）

- HIV 140件の国籍、性別を見ると、日本人男性が125件（89.3%）、日本人女性が6件（4.3%）、外国人男性が9件（6.4%）、外国人女性が0件（0.0%）であった。前年割合と比べると日本人男性（89.9%→89.3%）、外国人男性（7.1%→6.4%）が減少し、日本人女性（3.0%→4.3%）は増加している。
- AIDS 48件の国籍、性別を見ると日本人男性が45件（93.8%）、外国人男性が3件（6.3%）であった。

#### (4) 年齢階級（表6-1・表6-2）

- HIV 140件の年齢階級を見ると、15～19歳が1件（0.7%）、20～24歳が18件（12.9%）、25～29歳が21件（15.0%）、30～34歳が31件（22.1%）、35～39歳が18件（12.9%）、40～44歳が20件（14.3%）、45～49歳が11件（7.9%）、50～54歳が4件（2.9%）、55～59歳が5件（3.6%）、60歳以上が11件（7.9%）となっており、20歳代～30歳代で全体の62.9%（88件）を占めている。

- A I D S 48件の年齢階級を見ると、20～24歳が3件（6.3%）、25～29歳が2件（4.2%）、30～34歳が6件（12.5%）、35～39歳が2件（4.2%）、40～44歳が6件（12.5%）、45～49歳が12件（25.0%）、50～54歳が10件（20.8%）、55～59歳が2件（4.2%）、60歳以上が5件（10.4%）となっており、40歳以上で全体の72.9%（35件）を占めている。

#### （5）感染場所（表7）

- H I V 140件の感染場所を見ると、国内が129件（92.1%）、海外が5件（3.6%）、不明が6件（4.3%）となっており、例年どおり国内での感染が多い。
- A I D S 48件の感染場所を見ると、国内が37件（77.1%）、海外が5件（10.4%）、不明が6件（12.5%）となっており、例年どおり国内での感染が多い。

## 2 総括

- H I Vの報告は、140件と前年より28件（前年比－16.7%）減少している。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が95件（67.9%）と依然高く、前年114件（67.9%）に比べると件数は減少しているが、割合は同じである。次いで日本人男性の異性間性的接触16件（11.4%）となっており、前年26件（15.5%）に比べると減少している。また、少数ではあるが、日本人女性の報告数が増加傾向にある。
- A I D Sの報告は、48件と前年より5件（前年比－9.4%）減少している。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が20件（41.7%）と最も高いが、日本人男性の異性間性的接触が17件（35.4%）と前年8件（15.1%）に比べると増加しており、今後、女性のH I V・A I D Sの報告数の増加が懸念される。
- H I VとA I D Sの報告数はともに減少したが、H I V・A I D S報告数に占めるA I D S報告数の割合は、25.5%と前年の24.0%に比べ増加したが、近年、25%前後で推移している。
- 2016年の保健所等におけるH I V抗体検査件数は、15,745件と前年より1,018件（前年比－6.1%）減少しており、陽性の件数は76件と前年より22件（前年比－22.4%）減少している。引き続き個別施策層（※）や中高年層への啓発、検査体制の充実により、H I V感染の早期診断を促進する必要がある。
- また、社会のH I V感染症への関心の低下が懸念される中、新たな感染拡大防止のために、特に若者層への正しい知識の普及啓発を継続して実施する必要がある。

※個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために、施策の実施において特別な配慮を必要とする人々